



MORIOKA
ROTARY CLUB WEEKLY

第7回例会(8月22日)
平成26年8月29日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10
川徳デパート内
例 会 場 同上 TEL(651)1111(代)
例 会 日 毎週全曜日12時30分～

会 長 長澤 茂
幹 事 橋山 桂
会 報 古山 明廣
クラブ事務局 TEL(653)5682
FAX(653)5622

Light Up Rotary. "ロータリーに輝きを"..... ゲイリー C. K. ホアン



ゲスト卓話

「美馬森プロジェクト」

80 エンタープライズ専務取締役
八丸 由紀子 様

スピーカー紹介

「80 エンタープライズ」専務取締役として盛岡市玉山区にて八丸牧場を経営。八戸市出身。(株)リクルート勤務を経て岩手県内のリゾート総合会社に転勤。その後、大手観光農場、乗用馬トレーニングセンターに勤務。2003年「80 エンタープライズ」を設立し、馬事普及とコーチングを中心に事業展開。2006年から2年間、IBCラジオでコーチングの番組を担当。雑誌・新聞等にエッセイも執筆、コーチング・乗馬の資格のほか、盛岡市観光審議会委員も務めている。

(阿部 広会員)

私の歩み

銀座のOLから転身し、小さい頃からの夢だった、動物に関わる仕事に就きました。

そして25歳のとき、勤務先の乗馬クラブが突然廃止になりリストラを経験しました。

まずは、「馬たちを何とかせねば!」と、彼らの新天地を探中、馬車馬のダイちゃんだけ行き先が決まりませんでした。

いよいよとなったら殺処分だなど、会社は匂わせてきました。

当時、ダイちゃんの担当だった私はその危機を回避するため会社と交渉し、なけなしの貯金をはたいて、ダイちゃんを購入しました。

休みなく、朝から晩まで3つのバイトをしながら、自分の暮らしとダイちゃんの維持費を生み出していました。当時、私を支えていたのは、ダイちゃんと交わしたひとつの約束でした。

それは、またいつかダイちゃんと一緒に仕事をするとというもの。

私は、働くダイちゃんの姿を間近で見てたくさんのものを頂いてきました。

・互いを信じ合って働くことの素晴らしさ

・言葉を超え心が通い合う素晴らしさ

・馬たちと「敬意」でつながり、共に成長し合う素晴らしさ

まさに、馬と共に働くということは、「ゼロ」から「絆」を形成していくというプロセスで、それは、互いを「思いやり、信じ合い、活かす合う」ということの実践の連続でした。

また大好きな馬たちと暮らすために、念願だった自分たちの牧場を6年かけて主人とふたりで手作りしました。来る日も来る日も荒地を開墾し、土まみれになって、ついに牧場を作りました。

ダイちゃんを手に入れてから10年、私が35歳のとき、盛岡市内の中心市街地に賑わいを取り戻そうと、馬車をキーワードに地域活性事業をスタートさせました。その後も、温泉街の町興し事業などのお手伝いもしてきました。

ダイちゃんの周りには、いつも子ども達が集まってきて、多くの笑顔があふれました。

私は次第に、馬を通じて、地域の課題や社会の課題が解決できるかもしれない!と思うようになりました。

震災後の取り組み

私たちは制限の多い暮らしを強いられている被災地の子ども達に、自分たちの牧場や馬を通じて、“笑顔と喜び”を提供する活動を行ってきました。

心素直な子供たちは、馬たちと、あっという間に仲良くなってしまいます。自分がとった草を、美味しそうに食べてくれたときの喜びようといったら、言葉には表せません。

そんな中、この活動を通して、街の7割が被災した東松島市とご縁をいただき、復興に向けた“新たな街作り”のプロジェクト参画していて、近い将来、私たちの牧場もここに移転する計画です。

まさに先週末「馬と森を活かした街づくりプロジェクト」が自然活動家のC・Wニコルさんたちとともに、スタートしました。

私たちの想い

どこかの誰かの便利や快適のために、どこかの誰かに、しわ寄せが行くような暮らしや社会に心が痛みます。また人間の都合で、動植物の住みかが壊され、森や海が荒れていくことに、なおさら心が痛みます。

そこで私は、調和のとれた持続可能な暮らしや街づくりをしたいと考えています。

特殊車両で山に入り、作業効率を優先するという森林整備もあります。

しかし、私たちはこの先の「未来の子供たち」へと、100年続く、健全な山を残していきたいと考えています。

ある漁師さんが教えてくれました。

「山は海と繋がっているから、いい魚をとるためには、山の手入れが大事なんだ!」と。

うみとやま。両者を笑顔にできるのは、「うま

な」のかもしれない。

私たちは、伐採した木材の運搬を馬で行う「ホースロギング」という伝統技術を復活させ、様々な“命の源”である山にとって、優しい森林整備を行います。

この方法は、日本の小規模林業に向いていて、馬と働く姿は絵になるので、新たな観光資源にもなります。

理想の5年後 美馬森ビレッジ

このビレッジは復興に向けた住民の高台移転に伴いつくられたものです。ここでは、ある価値観に共感した人々が暮らしています。

それは、「馬と森を活かし、馬と森に活かされる、地域づくりを目指す」というもの。

さて、〈美馬森サポーターズ〉の田中さんが、恒例の〈冒険キャンプ〉に参加するため、東京からいらっしゃいました。

ちなみに、〈美馬森サポーターズ〉とは、このビレッジが大切にしている価値観や活動に対して共感し、善意を寄せ支えて下さっている方々のことを言います。

東京で生まれ育った田中さんは、何かに追われているかのように慌ただしく過ぎていくだけの毎日に疑問を感じていました。そんな中、美馬森サポーターズのことを知り、「自然体験」に興味を持っていた田中さんは早速登録し、休日を利用しては「森づくり」のお手伝いに来るようになりました。

そこで初めて、「働く馬」を間近で見ました。心が震えました。とても勇ましく、また美しくホースマンがひと声かけて馬に合図を送ると、ちゃんと届いていて、彼らの間に通い合っている、確かな“絆”を強く感じました。

田中さんが初めてここに来た時、「絆」とい

う言葉の由来を教わったことを思い出しました。絆とは、その昔、人が馬をひいて歩く時や木につながるときに使う「綱」から派生した言葉なんですよと。田中さんは思いました。「絆かあ、そういう感覚から久しく離れていたような気がするなあ」って。そして、「自分も『絆』を感じてみたい」って。

あれから5年、田中さんは美馬森の活動をサポートし続けてきました。

当時の景色とは一転して、あの真っ暗だった森は、日差しの届く明るい森に生まれ変わり、色々な生物たちの命も喜んでるように感じられました。

また、ここではホースロギングやホースパトロールを行い、森で働く「馬たち」を、あちらこちらで見かけます。ビレッジ内のゴミ収集もクリーンアップ馬車が行っていてすっかり街の風景に溶け込んでいました。

そして、馬と働く彼らがホースマンと呼ばれ、2年間の様々な研修を得て各種試験にパスした認定ホースマンたちです。

こうした研修プログラムにも、〈美馬森サポーターズ〉の方々の温かな支えが、一部活かされています。

こうした集落は宮城県に誕生しました。今ではホースロギングのみならず、教育や福祉・医療の現場でも馬は人々の暮らしから、切り離せない存在となりました。

またホースロギングによる山の整備も徐々に国内展開していているようです。

買きたいもの

生きたくても、生きることのできなかつた命たちの分も力を尽くしていきたいということ。

毎年牧場では、春に仔馬が生まれます。

あるとき、顔立ちの綺麗なメスの仔馬が生まれ、ブロービアと名付けました。

待ちに待った仔馬との対面。大きな喜びのすぐ後に、私たちは絶望の淵に立たされました。

なぜなら仔馬の足先に重い障害があり、このままだと立ち上がることもさえ無理だとわかったからです。

お母さんのお腹の中では難く生きてこれたけど、成すすべもないいま、翌朝獣医さんに安楽死の願いをする覚悟をしました。

仔馬は、母馬のおっぱいが飲みたいと自力で立ち上がろうとします。しぼったおっぱいを口元に持って行きますが、飲んでくれません。仔馬は私たちの手を振り払い、何度も転びながら立ち上がろうと懸命でした。

障害がある足に、体重がかかり骨折の鈍い音がしました。

そして、ついに立ち上がり、お母さんのおっぱいを自力で飲むことができました。

私は前が見えないほど泣いていました。朝まですずとつききりでした。

お腹いっぱいになって、幸せそうにすやすやと眠り始めました。

ブロービアは、最後まであきらめない姿を私たちにを見せて、そして翌朝、穏やかな顔で、天国に召されました。

「いのち輝く地域づくり」を通じて、生きてくても生きることのできなかつた命たちの分も力を尽くしていきたいと思っています。

八丸牧場 HP より 代表の挨拶



この馬に出会えたことが、私の人生の進むべき方向性を見出す、大きなきっかけとなりました。きっと、必然の出会いだったのだと思います。彼の名は、

グレースカップ (26歳)。馬の年齢でいうと、なかなかの高齢馬です。

彼が若い頃は、大学馬術部に所属する馬として障害飛越競技に出場するなど、各種活躍をしてきました。今は随分と丸くなりましたが、若かりし頃はとても気が強く筋金入りの頑固者でした。当時は、何かと暴れては、とにかく騎乗者を振り落とすことから、“落馬の帝王”という異名をとったほどでした。

大学2年のとき「自分がこの馬の担当になりたい!」と、申し出ました。それからは「どうしたら、スポーツ選手である彼等から、能力や才能を最大限に引き出すことができるんだろう?」この問いを常に抱きながら、日々、思考錯誤の連続でした。

今思えば、“見出す”難しさ、“引き出す”難しさ、“活かす”難しさ、“つなぐ”難しさに直面していました。それから、1年後。彼と“通い合う”という感覚を競技会で得ることができ、入賞を果たすことができました。彼が持ち合わせている能力と才能に触れた瞬間でもありました。

「必ず、お前の余生は自分がみる!」あれから、12年。現役を引退したグレースカップにのんびりと余生を過ごしてもらうため、自分たちが手作りした牧場に引き取りました。八丸牧場の一番の長老として、今日も私たちを元気づけてくれています。

例会報告

第7回例会
平成26年8月22日(金)

於 川徳 12時30分 開会点鐘

- ・司会 長澤 茂会長
- ・ソング 手に手つないで
- ・会長報告 長澤 茂会長
- ・ゲスト 八丸由紀子様(八丸牧場)
- ・入会祝 市丸清志君。
- ・誕生祝 川村宗生君。
- ・結婚祝 佐藤仁志君。
- ・幹事報告 吉江信博副幹事

【他クラブ例会変更のお知らせ】

- 盛岡西R.C.=8月28日(木)は、夜例会に変更、場所未定。
- 盛岡西北R.C.=9月10日(水)は、特別休会。9月24日(水)は、親睦夜例会のため18:30~ 時間変更。

【ニコニコBOX】

- ◆長澤 茂君…八丸牧場さんの卓話、楽しく聞かせていただきました。1986年の1月に現在の職場に赴任して来ましたが、その頃、ゴルフが大好きで週2~3回はゴルフ場に通っていました。当時小学生だった次男と女房が安比の乗馬

クラブに通っていたので仕方なくゴルフをやめてアッシー君をするようになりました。次男は1995年の福島県原町で聞かれた国民体育大会馬術競技に入賞することが出来ました。彼氏の賞状は私のゴルフと交換したような物です。今は私に似て太って馬に乗らない状態です。昔のことを思い出してニコニコしたいと思います。

- メークアップ
盛岡北R.C.=佐藤(仁)君。盛岡南R.C.=吉江君。盛岡東R.C.=橋本君。盛岡中央R.C.=星君。クラブ委員会=千葉・菊池君。

出席報告 会員数 / 71 名 出席数 / 43 名 出席率 / 65.15% 前々回修正出席率 / 83.82%

プログラムの
お知らせ

- ・8月29日(金) ゲスト卓話 田中広江様 (尙)アイドカ 代表取締役)
- ・9月5日(金) 新入会員卓話 長谷川桂君

- 本号編集担当 / 川村 宗生
- 次号編集担当 / 星 克彦